

みんなの文字明朝、いち早く導入

イセトー 通知物の認識度向上に効果

保険会社をはじめとする金融機関をメインユーザーに持ち、通知物作成などを手掛けるイセトー（京都市中京区）が、6月からデータプリントサービスにUDフォント「みんなの文字」（注）ゴシック・明朝を導入した。みんなの文字ゴシックを活用するサービスは従来からあったが、明朝は業界で初めてのサービスとなる。UCAが今年3月にみんなの文字明朝をリリースしたのを受け、いち早く取り入れたもの。通知物の可変部分のフォントを変えることで、受け取る側の認識度向上が期待される。

お客さま番号 000-1234

3 特約が付加できるご契約内容一覧

契約者 伊勢藤 太郎 様
被保険者 伊勢藤 太郎 様

ご契約中の保険契約 平成28年 4月 1日現在

ご契約中の保険契約		指定代理 請求人特約
1	証券番号 1234567890 主契約の保険種類 ○○保険 死亡保険金等の受取人 伊勢藤 花子 様 指定代理請求人 伊勢藤 花子 様	<input type="radio"/> 付加できます
2	証券番号 2345678901 主契約の保険種類 △△保険 死亡保険金等の受取人 伊勢藤 花子 様 指定代理請求人 伊勢藤 花子 様	<input type="radio"/> 付加できます
3	証券番号 3456789012 主契約の保険種類 ××保険 死亡保険金等の受取人 伊勢藤 花子 様 指定代理請求人 伊勢藤 花子 様	<input type="radio"/> 付加できます
4	証券番号 4567890123 主契約の保険種類 □□保険 死亡保険金等の受取人 伊勢藤 花子 様 指定代理請求人 伊勢藤 花子 様	<input type="radio"/> 付加できます

データプリントサービスとは、顧客から個人情報や契約内容など個人ごとの可変部分を印字し、封入封緘・はがき加工・発送・電子交付までするサービスのこと。同社が導入した今回のサービスでは、この可変部分を通知物の内容に合わせてゴシックと明朝を使い分けることが可能となる。

上図は、被保険者本人に代わって、保険金・給付金請求者をあらかじめ指定できる「指定代理請求人特約」の案内通知の一部。固定箇所を使用したみんなの文字ゴシックと区別するために、氏名や保険契約内容などの可変部分にみんなの文字明

朝を使用。もちろん通知物の内容にもよるが、こうすることで契約者の認識度向上が期待できる。

同社担当者は「全部同じフォントだと、どこが自分だけの情報なのか見落としてしまう可能性が高い」と懸念する。フォントを変えてメリハリをつけることは、見落としを減らすために有効だという。その上で、「受け取る側の立場で見やすさを追求し、ユニバーサルデザイン（UD）の視点で提案もしている」と話す。同社では、契約内容通知や控除証明書など通知物の内容に合わせてフォントを使い分けるな

ど、顧客ニーズに柔軟に対応できる体制を整えている。

また、近年UDに取り組む企業が増加していることを受け、同社では、データ印刷業務だけでなく、UCA認証取得のための手続き代行業務も行う。デザイン部門にはUD資格者が在籍しており、認証取得のためのUD提案などで取得に向けたサポートもしているという。

法改正や生活者の要望により、保険会社などから契約者への通知物の情報量は年々増加しているのが現状だ。一方で、高齢化の進展で、通知物書

面が読みにくいといった課題も多く、重要な通知内容が伝わらないために契約者の不利益につながる恐れがあった。同社では読みやすさを追求した同フォントを活用したサービスを提供することで、こうした課題に対応していく。

（注）「みんなの文字」はユニバーサルコミュニケーションデザイン協会（UCA）が開発したもの。文字のかすれやつぶれに対して耐性があり、数字書体の判読性が高く、誤読しにくく、老眼・白内障・高齢者でも読みやすい特徴を持つ。